

平成 30 年 9 月 27 日

報道関係各位

～熟練表具師が有名絵画を屏風で再現～

市内表具師が市に「原爆の図」屏風を寄贈します

この度福生市では、市内在住の表具師・柘植守氏から「原爆の図」屏風（複製・ミニチュア）を寄贈されることになりました。つきましては、10月1日（月）に福生市役所で贈呈式を実施します。

■「原爆の図」とは

「原爆の図」は日本画家である丸木位里氏の絵画作品です。現在、「丸木美術館」（埼玉県・東松山市）に展示されている「原爆の図」は、漆喰を葺いた和紙に特殊な技術を用いて印刷したもので、柘植氏が四曲六双の屏風に仕立てました。この特殊技術を用いた印刷は日本初であり、この工法で印刷されたものは200年持つと言われていています。

■寄贈の背景

丸木美術館に展示されている「原爆の図」を屏風に仕立てた職人である柘植氏は、当時、仕立てるにあたり、小さいサイズのサンプルを渡されていました。サンプルを入手したことがきっかけに作成した「原爆の図」屏風（ミニチュア版）を市に寄贈されることになりました。

■作品説明

今回寄贈される作品は上記作品の複製の一部をミニチュアにしたもので、元の作品と同様の特殊な紙を用いて仕立てられています。



▲今回寄贈される「原爆の図」屏風

■柘植守氏について

柘植氏は表具における高い技能を有しており、過去には掛け軸の仕立てを競う全国大会で3度優秀賞を受賞し、袋張りという技能を用いた文化財の修復を手がけたことなどの実績から、先日「ものづくり・匠の技の祭典 2018」にて、「地域の匠」東京都産業労働局長感謝状を贈呈されました。

■贈呈式

【日時】10月1日（月）午前11時から

【場所】福生市役所第一棟4階応接室

■問合せ シティセールス推進課産業活性化グループTel551・1699